

輪講 LaTeX 課題

1 はじめに

進捗報告や研究発表会の際の資料などに望ましい LaTeX の構成例です。

この PDF の例を見本として、「practice. tex」を元に同じものを作成してください。

名前や日付は適切なもの書き換えてください。

1.1 課題での留意点

- ～practice～ の部分を適宜補う
- 図表を適切な位置に張り付ける
- 図表に対しては \label と \ref を使う
- bibtex を使って参考文献をのせる

2 要素技術

2.1 要素技術 1

要素技術 1 における式を以下に示す。 x_1, \dots, x_n をデータとすると、出力 y は

$$y = \sum_{i=0}^n \frac{\exp(x_i)}{x_i} \quad (1)$$

となる。

2.2 要素技術 2

Bengio らはニューラルネットワーク言語モデルを提案した [1]。Bahdanau らは出力ごとに入力単語に対する荷重を決定してエンコードするアテンションモデルを提案した [2]。

3 提案手法

提案手法はうんたらかんたら～

4 実験

実験をかくかくしかじか～

表 1: 実験結果

予測	評価回数	Accuracy[%]	Baseline[%]
投票先	160284	79.43	75.68
処刑先	21626	89.26	79.31

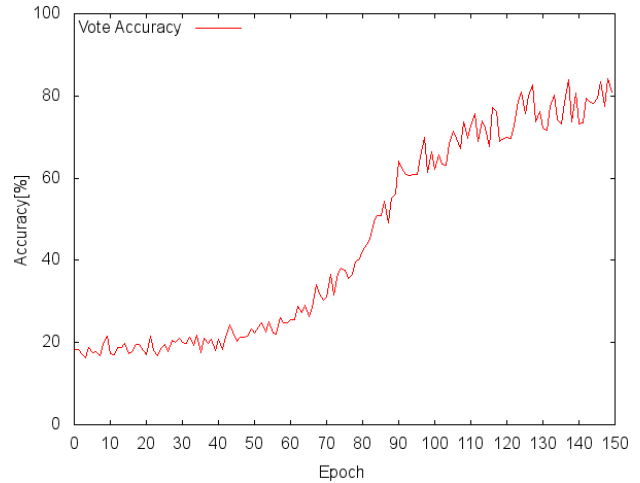


図 1: Accuracy の推移

5 実験結果

表 1 に実験結果を示す。図 1 に Accuracy の推移を示す。

6 今後の課題

今後の課題はうんぬんかんぬん～

参考文献

- [1] Yoshua Bengio, Réjean Ducharme, Pascal Vincent, and Christian Jauvin. A neural probabilistic language model. *Journal of machine learning research*, Vol. 3, No. Feb, pp. 1137–1155, 2003.
- [2] Dzmitry Bahdanau, Kyunghyun Cho, and Yoshua Bengio. Neural machine translation by jointly learning to align and translate. *arXiv preprint arXiv:1409.0473*, 2014.